

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol. 7



発行日：平成 30 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 45 回山部会WGを開催しました！

12 月 15 日(金)～16(土)に第 45 回山部会WGが豊田市にて開催されました。今回は、流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域木づかいガイドラインに関する情報共有を行ったほか、話題提供として、地域の農林業の取組みに関する事例、農村の廃校の利活用をめざす「つくラッセル」の活動、矢作川源流域の温帯性針広混交林の特徴が紹介され、意見交換を行いました。



日時：平成 29 年 12 月 15 日(金)～16 日(土)
場所：豊田森林組合 会議室 参加者：27 名(事務局を含む)

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

懇談会も 8 年目をむかえ、流域に視野を広げる必要性から、昨年度までの『山村再生』を改め、誰もがイメージできる名称にするため『流域圏担い手づくり事例集』に改名しました。今回は、取材の進捗状況を確認するとともに、今後の予定について意見交換しました。また、取材団体同士と取材団体と取材者の繋がりの深化を目的とした事例集交流会について、以下の日程で行うことになりました。

◆開催日：平成 30 年 4 月 14 日(土)～ 宿泊付き ◆場所：佐久島(西尾市)を予定 ※詳細は今後検討

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、矢作川流域担い手(森林技能員)100人ヒヤリングに関して情報共有と意見交換を行いました。
岡崎森林組合：〔平成 29 年 7 月〕組合の承諾済、〔10 月以降〕ヒヤリングの展開
豊田森林組合：〔平成 29 年 7 月〕組合の承諾済、〔8～9 月〕全支所長を個別に訪問、〔11 月以降〕ヒヤリングの展開
恵南森林組合：〔平成 29 年 8 月〕組合の承諾済、〔平成 30 年 4 月以降〕ヒヤリングの開始予定
根羽村森林組合：〔平成 29 年 8 月〕組合の承諾済、〔平成 30 年 4 月以降〕ヒヤリングの開始予定

3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、活動の実績と今後の展開に関する情報共有を行いました。

◆活動の実績(木づかいガイドラインの市民編)

- ・メッセなごやで出展した二畳タイプの小屋への市民の反響
- ・とよた未来塾、あそべるとよた 4days における市民の反応(特に、外国人の木づかいに関する関心)
- ・根羽村における山地酪農の進捗状況(牛による下草刈りの効果と集客、熊本からの1ターン者との協働)

◆今後の目標

- ・流域の 4 つの森林組合(岡崎、豊田、恵南、根羽村)の協働と活動拠点としての T-FACE の提案

4. 話題提供

◀地域の農林業の取組みに関する事例▶

おいでん・さんそんセンター森林部会では、都市部の住民の手によって、森を育てていくことを目的に地域住民、専門家、ボランティア団体、NPO、森林組合、行政が月 1 回の会合を設けて話し合いを進めている。

豊田森林組合では、手入れ不良林を改善するため、公的な補助金を利用して、約 10,000ha の森林管理を行っている。また、旭地区では子どもを対象とした林育を積極的に行っている。「心のふるさと」を理解できる地域や子どもたちを「旭地区モデル」として育てたい。



◀農村の廃校の利活用をめざす「つくラッセル」の活動事例▶

豊田市旭地区では、①子育て(担い手)、②稼ぎ(働き口)、③晩年(明るい未来)の 3 つが大きな課題だと考えられる。「つくラッセル」では、旧築羽小学校を舞台に、「はたらく拠点」「暮らす拠点」「つくる拠点」の 3 つを提供することで人材(次世代の担い手)を育み、いつまでも暮らせる地域にしたいと考えている。



◀矢作川源流域の温帯性針広混交林の特徴(研究発表)▶

日本の針広混交林は、北は北海道から南は屋久島まで全国各地にみられる。根羽村の針広混交林は、サワラを中心にヒノキやネズコの針葉樹、ミズナラを中心にブナやミズメを伴う広葉樹で構成されるのが特徴であった。今後は、傾斜等の地形的条件やかく乱の頻度といった物理的な条件をふまえて、データの構築を行っていきたいと考えている。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集について

- ・今年度は4月に山村再生担い手づくり事例集交流会2017を開催した。事例集Ⅰで取材した団体を中心に6団体の報告をいただき、とても有意義な交流会になった。今年も開催したいが皆様のご意見を伺いたい。(洲崎)
 - ▶ 交流会は極めて有意義であり、今後も実施すべきと思う。「流域圏担い手づくり事例集」に改名されたため、下流で開催してみてもどうか。(蔵治)
- ・山と川と海が交わるような感じがよいと思う。(今村)
 - ▶ 川部会の“地先モデル”と山部会の“山村再生担い手づくり事例集”の協働が実感できるとよい。(中田)
- ・事例集Ⅱに佐久島の「もんぺまるけ」を取材している。そこなら報告会から宿泊までできる。(沖)

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

- ・100人ヒヤリングの成果を非常に期待している。(眞木)
- ・さまざまな意見が出るものと予想される。成果の報告を受け、現場の技能員が動きやすい環境を築きたい。(林)
- ・次年度の矢作川感謝祭の実施については、どのような感じか。(蔵治)
 - ▶ いなかとまちの文化祭では、まちの市民代表として太田豊田市長、川の代表として新見さん、山の代表として丹羽さんがディスカッションを行い、次年度の矢作川感謝祭の開催を明確にしている。(洲崎)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・T-FACEという場所で、矢作川流域の4つの森林組合がコラボレーションできたら面白いのではと思う。(今村)
- ・あそべるとよた4daysの木づかい推進スグダラキャラバンでは、海外の方々から本箱とか漢字が書かれた表札作りに関心が示された。一度海外でイベントを実施してもよいのではという感じを受けた。(今村)

●話題提供について

◀地域の農林業の取組みに関する事例▶

- ・人工林や天然林は、田んぼや畑と同じようにとても大切な価値を持ち、半農半林の基本的な考え方である。(山本)
- ・どのくらい現場に出向かされているのか。(今村)
 - ▶ 時間があれば、現場を歩くよう心掛けている。現場作業員との接点はとても大切にしている。(林)

◀農村の廃校の利活用をめざす「つくラッセル」の活動事例▶

- ・古材レスキューが気になった。古い材は色とか味がでそうなので、やってみたいと感じた。(藤岡)
- ・廃校の教室ごとにさまざまな施設が入り、一つの拠点となっているということか。(日名子)
 - ▶ 色々な機能が集約されており、お金・人・物をシェアしながら運営していく予定である。(戸田)

◀矢作川源流域の温帯性針広混交林の特徴(研究発表)▶

- ・根羽村では人工林として針広混交林を導こうとしている。今回の天然林の調査結果は指標になり得るのか。(今村)
 - ▶ 常緑針葉樹林から針広混交林に移行させる過程で、この地域の適切な割合が示せると考えている。(城田)
- ・東大の瀬戸演習林では、不成績造林地において針広混交林がみられる。これも指標として扱えるといい。(蔵治)



◆豊田市におけるフィールドワーク(2箇所)

◀農家民宿ちんちゃん亭▶

案内人：けーすけさん&けーちゃんさん

今年度の事例集の取材先となったちんちゃん亭において、営業開始の経緯や今後の目標についてお話を伺いました。木や米糠の遊び場や木を使った「森のおもちゃ屋」を設置するなど、子どもが楽しめる空間が多くみられました。



◀あさひ森の健康診断報告会▶

3年間にわたり行われてきた「あさひ森の健康診断」は山主主体で行われた全国初の取り組みです。報告から多くの方が使命をもって活動されていたことがわかりました。来年度からは岡崎市ぬかた地域において、森の検診が始まります。流域への展開を感じる事ができました。



今後のスケジュール(予定)

山の地域部会は、平成30年1月22日(月)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、事務副所長 春日井
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

